

北アルプス国際芸術祭駅前
インフォメーションセンターに集合



村上憲<熱の連帯(足湯)>



ムルヤナ<居酒屋MOGUS>



NORTHERN ALPS ART FESTIVAL
北アルプス国際芸術祭 2024 を

しょう かた めぐ
障がいのある方と巡る
モニターツアーレポート

コタケマン <やまのえまつり>



磯崎誓 <種の民話 一たねのみんわー>



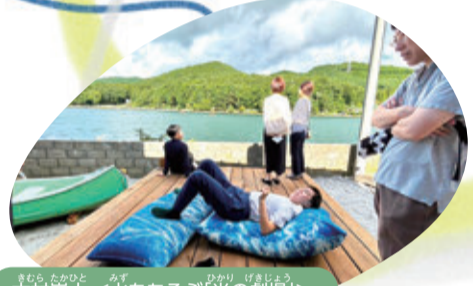
ケイトリン・RC・ブラウン&ウェイン・ギャレット
<ささやきは嵐の目のなかに>



ヨウ・ウェンフー<竹の波>



木村崇人 <水をあそぶ「光の劇場」>



ポウラ・ニチョ・グメズ<自然の美しさと調和>



浅井裕介
<すべては美しく繋がり選る>



信州アーツカウンシルとザワメキサポートセンターでは、ザワメキアート展、ザワメキ・キャラバン in 大町、北アルプス国際芸術祭を合わせて楽しんで頂きたい!という思いから、障がいのある方たちと芸術祭を巡るモニターツアーを行いました。参考にしていただき、アートサイトへ是非お出かけください!

- 開催日時 | 令和6(2024)年9月23日(月・祝) 9:30-16:30
- 参加者数 | 6家族(うち障がいのある方 7名)
ほか 計20名



じゅんぴへん
準備編

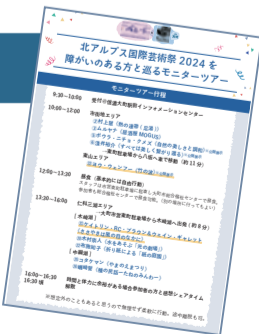
各アートサイトのリサーチ



モニターツアーを行うにあたり、まずは実際の状況を知ることが必要!ということで、全ての作品を鑑賞。段差の有無や入口の広さ、通路の状態、また駐車場から作品までの距離などの環境面をはじめ、展示場所の暗さや音の有無などの作品に関する要素もチェックしました。

どんなルートを巡る?

北アルプス国際芸術祭ならではの、自然と関わりがある、感覚的に豊かな、ひと目見て興味ひかれる作品を織りまぜつつ、とりあえずみんなで見に行ってみよう!その中で何がバリアなのか、何が必要なかを運営側も学ぼう!という姿勢で、多様なロケーションを体験できるようなルートを考えました。作品の写真やマップ、ルートを確認しやすいように参加者に配布する「しおり」を作りました。



施設へのヒアリング

障がいのある方と一緒に芸術祭を楽しむ為に必要な配慮について、信州アーツカウンシルと関わりがあって福祉の現場でサポートをしている方に改めてお話をうかがいました。まず挙がってきたのは鑑賞料金について。障がいのある方は1,000円ですが、介助者は一般料金3,000円(前売2,500円)になり、介助者による支援がなければ鑑賞が難しい方にとって金額的にハードルを感じるそうです。また、計画時必要なものとして作品の内容がわかるマップ、多目的トイレの場所、近隣の緊急搬送病院の情報で、鑑賞中はわかりやすいサイン(大きな音・強い光の警告も含む)があると良く、体験型で楽しめる作品は鑑賞意欲が高まるということでした。ただ、困っていたら手を貸して、あとはそっとしてもらえるような「心のバリアフリー」が周囲にあることが一番で、バリアのある場所でも行きやすくなるということでした。

特に配慮したこと

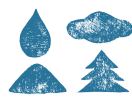
「芸術祭やアート全般を多様な人達にひらく」ということがもちろん大事なのですが、そのためには、障がいのある方やそのご家族に面白い体験として経験してもらえること、また行きたい、繰り返したい楽しい一日になることが必要。計画通りにいかないことを念頭に、各参加者が自分のペースを保てるゆるやかな進行を心がけました。

どんな人に参加してもらおう?

様々な「障がい」があるなかで、対象者を予め決めないと受け入れ準備もできないのではないかと最初考えました。しかし障がいの種類で人を分けて、特定の障がいを優先することになることにも、気が進みませんでした。アート作品や設置環境も様々で、開幕しないと状況もわからないのに、何の想定で準備するのか、先入観にとらわれるという懸念もありました。結局、今回を「継続する活動の初回」と捉えて、既に接点のあった関心のありそうな方にお声掛けし、「行きたい!」と意思表示をくださったご家族と障がいのある方を念頭に、日々の経験で蓄積した対応力を現場に持ち込んで活かしていただく、ということを中心にしました。例えば今回は視聴覚の障がいのある方の参加を受け入れることはできなかったのですが、また今度、ということで間口を広げていけたらと思います。

参加者のみなさん

- 両角さん家族 ■ 福田さん家族
- 町田さん家族 ■ 大井さん家族
- 中野さん家族 ■ 渡辺さん家族
- 長野県立美術館 アートコミュニケーター1期生 3名



しがいち
市街地エリア

2 村上憲<熱の連帯(足湯)>



1人で乗せられる高さではなく
サポーターがないと入れなかった。
でも小さい子ならば大丈夫かも！？

信濃大町駅前の広場に突如として現れた藁葺きの建物。ここは枯れ葉の発酵熱を利用した“足湯”が体験できる場所でした。ウッドデッキの下にはものすごい量の枯れ葉が敷かれており、まるで広葉樹林にきたような独特の香りが漂うのも納得です。足をグイッと奥まで入れると発酵による熱で足を温めることができます。枯れ葉に触れてテンションが上がる方もいれば、足に触れる感触が苦手という方もいらっしゃいました。車椅子ユーザーは介助者が2名いれば体験することができました。

市街地エリアマップ



ほんらいはじ
本来初めての場所は苦手なんですが、
事前にしおりで見て部屋の中に何が
あるかわかってた(大好きな感じで
した!)ので、外で並んで待つことも、
中に入ることも、すんなりでした！



駅から大通りを出てすぐ右に曲がり、住宅街に入る。しばらく歩くと見えてくる青い屋根とその壁面に飾られた大きなお面。そこが、インドネシアのアーティスト・ムルヤナのアートサイト「居酒屋MOGUS」です。ツアー一行で訪れると、「ようこそ」となんと作家ご本人が登場!偶然にも、ムルヤナさんが滞在されてワークショップが開催されていました。室内にたくさん用意された毛糸で編まれたフードのモチーフを自由に選んで自らの「フードモンスター」を創り、ムルヤナさんがそれを写真に撮ってくださるといふスペシャルな瞬間に、参加者のみなさん大盛り上がりでした。

3 ムルヤナ<居酒屋MOGUS>



ムルヤナさんinstagram(@mangmoel)に!

5 ポウラ・ニチョクメズ <自然の美しさと調和>



まちなか くるまいす
街中は車椅子でも
もんだい いろいろ
問題なく移動できた!

このサイトの特徴は、趣きのある店舗に大作が展示されている事ですが、障がいの特性によっては、沢山配置されている本棚が苦手に感じるかもしれないとの意見や、車椅子ユーザーは、鑑賞できるポイントに限られ、作品を見上げるかたちとなるので、作品を細部まで鑑賞できない場合があります。

6 浅井裕介 <すべては美しく繋がり廻る>



自分のペースで歩いたり、苦手なところは飛ばしたり、ゆるやかなツアーでよかった。

大町名店街は、昭和の風情が残るノスタルジックなアーケード街。天井から程よく陽の光が入り、青い電灯や看板が幻想的な空間です。見下ろすと地面には、浅井裕介の作品があります。参加者は、各々のペースでこの空間を楽しんでいました。大町名店街を本通りから東町駐車場に向かったのですが、名店街を抜けて駐車場へ向かう道に高低差があり坂道のため、車椅子ユーザーは、介助が必要な場合があります。

ひがしやま
東山エリア

32 ヨウ・ウェンフー <竹の波>

今回の芸術祭の象徴的な作品の一つ。信濃大町駅から約8km、車で15分かかるので、時間に余裕を持って鑑賞に向かうことをお勧めします。この会場の駐車場は、案内板の出ている「大町市役所八坂支所(上の駐車場)」と、「大町市八坂公民館(下の駐車場)」の2ヶ所から選べます。「上の駐車場」からは作品の全景を眺めることができますが、建物まで50mほどの坂道があるため、体力に自信のない方は「上の駐車場」で鑑賞したのち、「下の駐車場」に移動するといいかもかもしれません。会場の公民館にはキレイなトイレ(車椅子対応)もあるので安心です。



芸術祭のマップに、多目的トイレの表示がほしい。

「旅のしおり」があったことで、事前にルートや場所、どんな作品かがわかって計画しやすかった。



にしなさんこ
仁科三湖エリア
きざきこ
＜木崎湖＞



しぜん なか
自然の中にあり、
かいほうかん きらく
開放感があって気楽
だった。

21 ケイトリン・RC・ブラウン&ウェイン・ギャレット <ささやきは嵐の目のなかに>

駐車場から木崎湖を右手に見ながら湖畔沿いを少し歩き、森に上がると見えてくるキラキラと光る無数のレンズ。風に揺れながら、向こうの景色を映し出しています。そこまでお散歩気分であらうみなさんも、「わあーきれい!!」と歓声を上げて駆け足に。光のインスタレーションを創っているのは、なんと15,000枚の度数つきの眼鏡のレンズ。なるほど、だから向こうの景色が拡大して見えるんだね、なんて言いながらみんなで覗いたり、反対から写真を撮ったりしながら作品の中に入り込み、長めの時間を過ごしました。



しぜん なか だいすき
自然の中、しかも大好きな
みず ちか
水の近くにあったことで
さんぽ きぶん ある なか
散歩気分であらう、その中
さくひん
に作品があったので「なん
かあるぞー、不思議!」とす
はい
んなり入っていました。



仁科三湖エリア<木崎湖>マップ



案内に「ここまで徒歩〇〇分などの表示があると、わかりやすい。」

20 木村崇人 <水をあそぶ「光の劇場」>



木崎湖沿いにある空き家をまるごと使ったこの作品。木崎湖が一望できる2階の部屋は、流木のベンチに座りながら部屋全体で木崎湖を感じることができます。2階に上がる階段は傾斜が急なため、上り下りする際は気を付ける必要があります。1階は湖側に開けたテラスと繋がっており、参加者の皆さんはテラスに腰掛けたり、備え付けのクッションに寝転がったりしながら、木崎湖と作品を満喫していました。



にしなさんこ
仁科三湖エリア
なかつなこ
＜中網湖＞



26 蛸崎誓 <種々の民話 一たねのみんわー>

六角形の平面に描かれた山や木・模様などの絵は、近くで見ると大町近辺から集められたさまざまな「種」で描かれていました。大豆やあずき、花豆など見覚えのあるものも!横の棚にはピン詰めが使われた種の名前と採取された場所が書かれていました。

25 コタケマン <やまのえまつり>



仁科三湖エリア<中網湖>マップ



体育館に入ると、空間いっぱいに吊り下げられた大きな布に描かれた絵が目飛び込めます。大きさに圧倒されつつ「これどうやって描いたんだろう!」布の継ぎ目がある」など、作品の細部を観察している声も聞こえました。体育館奥にあった制作風景の映像をベンチに座りじっくり見ていたり、ステージで横になったりと、各々がゆったりと休みつ好きな場所から作品を楽しみました。

へんしゅうこうき
編集後記

■ 今回障がいのある方とツアーをしてみて、実は芸術祭は、ふだん障がい者と関わりがない人たちが、障がい者の方と一緒に、フラットに時間を過ごす良いツールになるというのが気づきます。作品鑑賞に加えて市街や湖畔の遊歩、飲食の時間があることで、日常生活の関係性に近い交流機会を作れると思いました。ツアーというかたちで互いに異なる多様な人たちが、アート作品に反応しあうことで、一層、アートの魅力やアーティストが人を惹きつける力を実感することになります。引き続きこのような取組を続けていきたいと思ひますし、これに続く人たちが現れることを期待しています。(信州アーツカウンシル 野村政之)

■ 「障がいのある方」と普段から関わっている当センターとしては、事前に「障害特性」とか、「鑑賞支援」、「合理的配慮」等について意見交換をしたうえで参加しました。しかしながらツアーが始まった瞬間、すべてが取りこし苦労であったと気付かされました。もちろん、必要最小限の配慮は必要となりますが、「障がい」をフィーチャーするのではなく、大町市の街並みや自然を含め、「作品鑑賞と一緒に楽しむ」という気持ち

ちさえあれば、普段、障がいのある方と関わりがない方であっても、「北アルプス国際芸術祭」、そして「ザワメキアート展」、「ザワメキ・キャラバンin大町」を楽しめると思ひます。是非、色々な場所に出かけてみてください! (ザワメキサポートセンター 中村勤二)

■ アーツカウンシルさんの発案で始まり、知り合いのご家族のご協力をいただいで実現した鑑賞ツアー。スタートから予想以上のことが起きたり、心配していたことは何もなかったりと、その都度みんな「へえ」と驚いたり、感心したり、笑ったりと、一緒に歩いたからこそ見えた光景がたくさんありました。中でも一番強く感じたのは、「好き」という気持ちで超えられるバリアがたくさんある、ということです。入ってみたい!と段差を超えた車いすの女の子。作品を見たい!と暗くて人が多い(本来苦手な)部屋に入れた女の子。これもアートの魅力なんだ、とあらためて感じています。美術館などでの鑑賞とはひと味違う、街なかや大自然の中でのアート鑑賞をぜひ、たくさんの方に楽しんでいただけたらと思います。(鈴木真知子)

- 発行日|2024.10.12 [バレードプレス 特別号]
- 企画|信州アーツカウンシル (一般財団法人長野県文化振興事業団アーツカウンシル推進局) 野村政之、佐久間圭子、早川綾音
ザワメキサポートセンター (社会福祉法人長野県社会福祉事業団 長野県障がい者芸術文化活動支援センター) 中村勤二、持田めぐみ
ザワメキ・キャラバンin大町 キュレーター 鈴木真知子
- 協力|北アルプス国際芸術祭実行委員会事務局

文化庁 令和6年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

そだん と あ
ご相談・お問い合わせ

信州アーツカウンシル (一般財団法人長野県文化振興事業団アーツカウンシル推進局) | TEL 026-223-2111

ザワメキサポートセンター (社会福祉法人長野県社会福祉事業団 長野県障がい者芸術文化活動支援センター) | TEL 026-217-0022

北アルプス国際芸術祭実行委員会事務局 | TEL 0261-85-0133

